

二 中 電 作 戰
於 今 日

野 戰 高 射 砲 亦 七 九 六 隊 火 實 質 資 料

昭 和 三 十 三 年 三 月 三 日
第 三 二 軍 殘 務 處 理 部

一 部隊の履歴

1. 昭和十九年七月三日 千葉市国府台女部才七十三部隊に於て
編成完了

2. 七月三日門司乗船 八月一日出港 沖津那覇港に向ふ
3. 八月十日才一中隊及大隊東部那覇到着
八月二十日才三中隊才三中队 那覇港に着

一 部隊の作戰開始時の編成

大隊長 陸軍少佐 菱井敏昭

副官 陸軍大尉 富松俊彦

指揮班長 陸軍中尉 吉倉孫弘

兵器班班長 兵 南正義

主 針 大尉 鷲巣栄代三

通信班 中尉 大月莊松

軍醫 見玉正直

前副官

中岡内光雄

才一中隊

中隊長

陸軍

中尉小嶺康敏

小

少尉

河野隆

小

少尉

杉内晃吉

才二中隊

陸軍

中尉東原吉禮

中隊長

陸軍

中尉細沼受之助

小

少尉

太田博

小

中尉

竹下良夫

才三中隊

陸軍

少尉清岡徳之助

中隊長

陸軍

中尉中村猛

小隊長

陸軍少尉

氏家三郎

立石

木田修

外二各小隊一名宛の見習士官あり
一指揮隷属 配属関係

作戰開始前

昭和九年八月 上陸後才三四師団有轄トナル

才三師団

大隊東部乃才一二少

高射砲司令部ニ隷ス

才一中隊 才三四師団ニ配属トナリ高射砲司令部ニ隷ス

作戰開始後

才三中隊 獨混才四十四旅団配属トナル 大隊東部乃才一二少

才二師団配属トナル

才一師団 戦手

自書 昭和九年五月二十日

島尻

與儀附近、戦斗

自五月四日至五月十七日

米須附近、戦斗

自五月廿三日至六月十七日

一大隊東部、監視係、陸軍兵長川平佐武朗

戦斗中頭以降係トシテ各煙ノ通信ヲ絶ルル時ヲ難ク排シ盡シ

召共猛烈ノ砲撃ヲ下最後迄大隊東部連終ラ全カラシム

才一中隊、分隊長、陸軍中曹、大橋至哉

才一分隊長トシテ戦斗中終始部下完全ニ當テ握対戦車

射撃ニ注リ、射撃技術ヲ發揮ス島斗三五月二十日迄ニ戦死

野戦高射砲七十九大隊戦闘経過概要

一編成出發

昭和十九年七月二十三日東部軍防空集団照空大隊長リ

陸軍少佐委本敏昭ラ大隊長トシテ南西諸島才三十二軍、指揮

ニシテ為編成相在部隊東部才七十三部隊ヲ出發ス

八月十日那霸着大隊直三才西師団長、指揮ニハル

才三三中队ニ度見島ニ於テ約一週間帯トシテ約十二日迄

才八月二十三日軍事那覇港ニ着ク

三南國、酷暑中ニ將兵ノ掩作備棄作業ハ血汗ノ裏

續テアリ各于隊陣地、外ニ備陣地構築ニ晝夜並行ノ

努力ヲナス

三三〇。復讐

十月四日高司令官ヨリ才三中队ハ臨編大隊長金井大尉
 指揮ニシテ國頭東部羊島嶺底鎗地防空ノ任ニ就ク
 十月十日午前七時ヨリ空襲ヲ受ケ半烟中ニ陣地ヲ占領ス
 之爲ケラミンノ好目標トナリ十二時ハラミンノ機銃掃射ヲ受
 ケ一機ヲ二三名ノ死傷者ヲ出セリ翌日復シテ機銃掃射ヲ受
 ケ二三機ヲ墜喜味及喜名ノ陣地ニ於テ奮斗冬撃ヲ遂ニ機
 銃果ヲ奪ク
 四那覇轉進
 大隊ハ高司令官ニ基キ全大隊才一小隊ト共ニ才三中队東部
 ハ那覇港防空ノ任ニ就ク 大隊東部波上神社並上
 山函民學校 才二中队若狭町高小學校ニ進
 才三中队 西新所 理立地

八十六隊才一（中）大隊（鉛水隊）垣花町畑地
 五対空戦斗

一〇〇空襲言ハ戦訓ヲ注用シタル教育本部要務轉進海
 新陣地構築ト並ニテ實施ス十二月廿一日ハ偵察機
 内均照和千軍ニシテ元且早々未襲ニ敵機動部隊近接
 報屬ニシテ平靜ナルヨリナシ
 一月廿日ハ未襲物グラミンハ機波上神社上空ヨリ南進
 急襲ヲ受ケ各中隊陣地ニ機銃掃射ヲ受ク
 一月四日 超低空ニテガミン四機 小銃空襲
 一月廿日ハ千數百機各飛場ヲ襲ス 偵察機ハ定期
 的ニ毎日アリタルハ大隊威力圏外ニテ射撃不能ニス
 六地上戦斗準備

地上戦斗、高射砲ヲ對射撃ニ使用セシメ
スル事ニ決シタル上級司令部ハ高射砲對空戦斗ニ大
隊ノ外ハ對戦車射撃ニ即應セシ陣地築及教育ヲ徹底
セシメテ命シタリ當大隊ハ對戦車射撃大隊ヲ命セラレシ
速ニ陣地構築ヲ完成スルヤハナキニ至ル

對戦車陣地

大隊東部 首里 放送局下 松川所

中隊 内間 泊高橋所 元軍司令部東高地

小隊 安里 牧志所 焚儀 眞玉橋

第三中隊 知念生島 百名 カヤ原 手登根

二月十日高司令ヲ指揮班長會同アリ敵上陸ノ様切迫セラ
レテ幹部以下晝夜兼行ニ陣地構築ヲ促進スベキヲ
命セ

三月十日翌日ハ紀元節モ休務セズ全員奮斗ス大隊長各
中隊築塹作業ヲ監視ス

七地上戦闘

三月三日空襲ドヨリ島々トシテ報来空襲アリタルモ司令
部情報ハ小機動部隊ノ艦載機ナル如ク報シタルヲ爆
撃目標ニ燒毀飛ハル艦船止マラス海上特攻隊陣地水
際陣地與那原牧港方面モ属爆撃ニ敵上陸ノ氣
運既ニ感セラレタリ各中隊全員ノ過半數ヲ作業ニ充
テタル為全火力ヲ發揮スル事ヲ得サシモ志氣旺盛ニテ
軒昂ニ殊重陸ノ戦果ヲ得タリ九時三十分安里中尉
直撃彈ヲ受ケテ烈シク戦死ス

續ニ十四日敵空襲ハ益烈シテ船団ヲ令ハ敵機動部隊

我接近ヤ、ト報傳リ、甲号我備ハ下合テ、全員時機
列来ト勇踏ス

三才三才隊前進

才三才隊ハ甲号戦備下合ニ先テ既ニ準備セシ、先合ニ島白火カキ

ヤ原手登根陣地ニ二十四日夜月明ヲ利ニ勇奇備シテ、タビヨ

ハ大隊長、決別ノ誓ヲ受テ出発ス

三才三才隊

才三才隊ハ甲号戦備下合ニ先テ既ニ準備セシ、先合ニ島白火カキ

ニ、五百夜配属自前貨車ヨリ所定ノ陣地ニ前進ス

又才一才隊

北飛山崎看喜味ニ於テ対空戦ヲ任シ、カリニ才一才隊

ハ二十三日没後、曳光弾ノ下艦砲射撃ヲ受テ、ソノ小山嶺

中尉ノ指揮的切ナル為、損害ナク、首里西セ部各陣地ニ侵入ス
五月十四日、妻木大隊長戦死、高司令、部員、金井大尉、三六
日新大隊長トニ任ス

6. 才三才隊ニ配属ラ命セラレ、内閣附近ニ陣地ニ上ル、三才
ル、小山嶺中尉指揮、才一才隊ハ五月十日、才一次總攻、勇協力、高対

空戦ヲ、能勢ニ解移シ、野戦陣地ニ於テ、対空戦ヲマセ、モ特

中止、總テ、五月上旬、敵ノ進攻、才三才大隊、百面ニ及リ、依テ、中隊長ハ

敢然、対空戦ヲ命、才三才、才三才、報柳ニ爆車ヲ繰返ス、敵

機ニ対シ、戦ヲ挑キ、照ルニ、敵ヲ射テ、後、敵機、目標トナリ

陣内、爆彈、落下、中隊長、負傷、テ、他、死傷者、繰出、隊員、洞野

少尉指揮、才一才、才三才、才三才、前進ス

中隊長ハ、才三才、才三才、才三才、五月十日、戦傷、死ス

石嶺陣地全滅

元軍の分隊陣地を居りし東原少隊の向の上石嶺に転進し
五月二十日陣前を敵の砲に受て三馬に東攻撃を受け全員行軍
不明トナレ

高松町陣地潰滅

西海岸ヨリス敵海兵師団の進攻に予想より安洲に居り
天久台地を一斉に突破せしむり高松橋所附近の少尉以下五分
隊の崩潰に面し上陸軍に對し射撃を有せしむり
進攻早かりし高松は射向を交換し能く敵の火器
攻襲の目標トナリ少隊長以下十数名は死す戦死す隊
の柳野少尉以下若干名は幸ひ脱出す中隊を令し其儀
陣地ニモル

アチヤ隊の善斗ス

百名ヲリ火砲ニ付以テ代東少尉指揮官トシ慶良原に於
テ対空戦ヲ為シ敵機三機ヲ撃墜ス

四月二十日 大里ハ大隊鈴木隊の陣地ニ火砲ニ付中村中尉
指揮ヲ協カシ命ジリ木田少尉ハ適行ス

五月一日新ニ命アリ中村隊ニ由リ首里北側ニ陣地を領ス
夜中侵入シタル敵鈴木隊候井分隊ハ中校側彈痕ニ車輛
ノヒ込テ予定ノ陣地ニ進入出来未健ナリ又ナリ首里高木校庭
陣地ヲ占領シ五月十八日正東敵ヲ射撃ス。實施ス五月
十九日中村中尉ハ火砲ヲ破壊シ長當大隊東部ニ連絡ヲトリ
島尻南部ヲ進ス

六月十日本田少尉外五名伴生大隊東部ニ連絡ニ成ル

六月廿二日慶良原ヨリニ火砲引取り至ルニ敵謀ニ侵入不能ノ
爲食糧ノ若手ヲ運搬ス

十日中隊全員米須部落東部ハ隊ヲ入ル
ハ才二十隊奮闘ス

留依團互協ニ才二十隊ハ英儀陣地ヨリ高勝所天久谷上
ニ於ケル敵格ヲ陣地ヲ每祖三四ノ発射撃敵ニ大ナル損
害ヲ分ハリ

五月下旬留依團命令ヨリ國場川南側地ニ於テ敵
格ヲ陣地ノ帶亂射撃ヲ實施スルト命令ニ基キ長官
一高高地西南ニ陣地ヲ移換セリ豪雨ト泥濘トナリ
砲撃撃下死ニ接ル難作業ヲ強クセリ
ハ大隊本部ノ行部

放送局下ニアリ才二十隊ノ射撃ヲ指導シテ東部ニ盛烈ヲ
ル爆撃ヲ受ケ死傷續出ス才二十日ノ烈燄撃ヲ向斷ヲ利用シ
敵前ヲ突破與儀才二十隊陣地ヲ移進シ以後才二十隊ト行部ヲ共ニ
大隊ノ最後

才二十隊ノ戦ヨリ岩中隊東部共共ニ坐仲坐附近ノ陣地ニ六月二日集
結十日米須附近ノ陣地ニ移進ス 才一線ハ司令官南ノ下決断ナル我
陣地ニ盛烈ナル砲弾集申ス
才二十日才二十隊ハ旅団命令ヨリ十五日ヲ腦彈ニ付テ新持全員壯烈ナル
新ハハ敵行セリ
才二十中隊殘員ヲ倉ノ才二十中隊生存者全員大隊東部ノ殘存者全
員ニ名乃至才二十組トナリ十八日及十九日夜多部休長ノ先頭ニ取
物新ハハ敵行セリ